

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム 昭ちゃんの家
訪問調査日	平成19年8月8日
評価確定日	平成19年9月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果査概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム 昭ちゃんの家
所在地	鹿児島県志布志市有明町蓬原554番地6号 (電話) 099-475-2224
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年8月8日

【情報提供票より】(19年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建 造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	277 円	昼食	277 円
	夕食	277 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.4 歳	最低 72 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みやじクリニック、しんどう歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園地帯の一角に位置し、木がふんだんに使われ、大きな窓や吹き抜けからの自然光が豊かで明るくゆったりとした造りである。入居者にとって、これまでの生活が違和感なく続けられるものとなっている。ホーム側のスケジュールを優先することなく、入居者にその日の意向を聞いた上での柔軟な対応がなされ、ホーム内に留まることなく、地域へ出かけたり、これまでの馴染みの場所を訪ねるなどの積極的な動きがみられる。また、開設者である医師が、朝夕毎日訪れて入居者と接しており、健康管理も十分に行われ、入居者やご家族にとっての安心材料の一つとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 〈権利・義務の明示〉 契約書に入居者の権利・義務に関する事項を追加し、入居者に説明し同意を得ている。〈口腔内の清潔保持〉 毎食後の歯磨きを全入居者実施することは困難であるが、訪問歯科診療を受けること及び毎日の嚥下体操の実施に取り組んでいる。〈地域の人達との交流の促進〉 近隣の方々を意識的に挨拶や会話を交わし、徐々にではあるが地域の方がホームを訪れてくださったり、一緒にゲートボールを行ったりしている。〈注意の必要な物品の保管・管理〉と(市町村との関わり)についても、具体的に取り組み改善が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者より評価意義の説明が行われた後、各職員が担当箇所を精査した上で、全職員での討議が行われている。職員の業務改善意識も高揚している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には開設者、管理者、ご家族代表者、市の担当者が出席し、ホームの運営状況報告や行事計画及び実施報告を行い、それぞれの立場より意見をもらい日常業務に反映させようという姿勢で取り組まれている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱、ご家族訪問時の積極的な会話、電話報告、運営推進会議等あらゆる場面で、ご家族からの意見を抽出できるように対応している。また、ご家族と何でも言える関係を築き、得られた意見については、開設者・管理者・職員が真摯に受けとめ、その都度、質の向上へ向けた取り組みを検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事や衛生自治会へ参加することで、地域住民の方との接触機会を設けている。近隣の方々とは挨拶から始まり、現在野菜のやり取りやゲートボールを共に行うなど良好な関係づくりが進行中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自宅と同じ感覚で暮らしていけるように、家族として支え合い、また地域の方々との繋がりを大切にすることで、地域住民の一員としての自覚を持った理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議や毎朝の朝礼の際に理念の唱和を行い、入居者参加型で、地域との繋がりを大切にすることを確認し合い、地域の方々との出会いを設けるような場面づくりを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事へ参加したり、衛生自治会へ加入することでゴミステーションの清掃作業を行うなど、地元の方々と協力すると共に、役割を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より評価の意義を職員へ説明し、個々の職員がそれぞれ担当を持ち、全職員で自己評価結果を共有している。評価結果に対して職員間で次の業務へ活かす意識が芽生え、改善策に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者・ご家族代表、民生委員や市の担当者に参加してもらい、ホームの運営状況報告や各種予定の報告を行い、それぞれの立場から意見をもらっている。	○	ホーム運営の課題に対して、さらに積極的な意見を出してもらえるように、事前のテーマ告知や推進会議メンバーの意見から生まれた成果を発表するなどの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者は毎回出席しているものの、日常業務においては、事務手続きでの窓口対応に止まっている。	○	地域のグループホームとも共同して、市の担当者と共に、現場の実態や課題に対して協調して取り組む体制の構築が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族へ毎月定期的に請求書、月次報告書、金銭出納帳の写し、ホーム便り(年4回)を発送している。報告書では、入居者の健康面や日常生活状況等を記載し、ホーム便りには行事や職員紹介等を掲載している。ご家族の面会時も、積極的に生活状況や相互の依頼等の話をするように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の思いを受け止める体制として、年1回のアンケート実施や意見箱の設置、運営推進会議での意見の聴取、ご家族面会時の会話を通して様々な意見をいただけるようにしており、また意見に対しては必ず回答するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代については、半月～1ヶ月の引き継ぎ期間を設け、その間新入職者についてはなるべく入居者と交わる時間を増やし、入居者がその職員に徐々に慣れていただけるように、勤務の組み方に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員が、内部・外部を問わず平等に学習する機会を与えられ、参加できない場合でも報告書や資料を使い報告会が行われて共有に努めているが、職員の段階に応じて計画的に育成する仕組みは十分とはいえない。	○	職員の経験や習熟度を理解し、さらなる人材育成のためにホームとしての方針を定め、計画的な学習機会の構築が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、地域の他グループホームとの交流を持ち、研修会等へ積極的に参加している。また、職員研修においては、他のグループホームでの現場実習や見学を取り入れて学びの機会を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に至るまでは、事前面談やホーム見学等を行ってホーム機能の理解が得られるようにしている。担当ケアマネジャーとの情報共有の機会も持たれている。	○	入居希望者が、職員や入居中の方々と馴染みの関係を構築しながら、段階的なサービス利用に繋がるような工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と接する中で、言動や表情、行動などから様々な気づきを持つよう努めることで、相手の気持ちを理解しそれに応えるようにしている。職員と入居者が助け合い、ねぎらい、分かち合う環境づくりに配慮し、喜怒哀楽を共に感じることができるように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のこれまでの生活状況を踏まえ、現在の生活ぶりとは照らし合わせながらその思いを探ったり、会話を通して普段と違った内容や口調への理解に努め、入居者の思いへ寄り添う取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を踏まえ、計画書には入居者の言葉でそのまま表現するようにしている。カンファレンスやケース会議を通して、今後の方針や具体的なケアの方法等を職員全員で意見を出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の現状把握に努め、モニタリングを3カ月に1回実施している。その上で、介護計画の見直しを行い修正をしている。状況や状態に変化があった場合は、その都度見直しようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日、母体法人のクリニック院長(ホーム開設者)の訪問があり健康管理が行われており、予定外の外出や緊急時の対応についても、極力柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族が納得されるかかりつけ医の選択を勧め、状態変化時や他科受診が必要な場合は、基本的にご家族へ対応を依頼しているが、場合によっては職員が同行して適切な対応が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての意向は、現在予測しうる状態での方針の共有がされており、今後刻々と変化する状態の中で、その都度話し合いの機会を設ける仕組みになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアにあたっている時は、入居者の羞恥心に配慮して行うようにしている。また、入居者の尊厳を守ることやプライバシーを損ねないこと等について、職員には誓約書でその重要性を周知徹底している。日常においても、開設者や管理者が度々点検し、必要に応じて指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れとしては日課があるが、入居者の気分や能力等に応じて本人のペースで物事を進めていくようにしている。職員は業務優先にならないように、入居者と会話しながら支援するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や調理方法については、入居者より希望や意見を聞きながら決定し、実際の調理や配膳等も入居者と共に行っている。食事は、職員も同じ時間に同じ料理を食べ、同じテーブルで楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については一定の時間帯を設けているが、日々の状況によって柔軟な対応ができる体制となっている。ホーム以外の温泉施設での入浴や自宅入浴を行うなど、気分や嗜好を変えた取り組みも行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のこれまでの生活歴や生活環境、趣味・特技を活かせるような役割をみつけて職員と共に行ったり、時にはホーム敷地内で行われる地域の皆さんとのゲートボールに参加するなど、楽しみごと作りに取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の状態を見ながら、外出機会をできるだけ多くとり、季節を感じるができる場所や入居者の思い出の場所等へドライブや散歩に出かけている。また、畑や庭の草取りをしたり、買い物へ出かけていたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が入居者の特徴を念頭に置いて行動を確認したり、時間によって居場所の確認を行ったりして、日中は鍵をかけず事故予防に努めている。夜間帯の職員一人体制時には、防犯上、施錠しているが、面会者が呼び出しやすいように案内板が設置されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者の誘導や連絡方法がマニュアル化され、定期的に地域消防署の協力、指導を受けての避難訓練や火災時の対応、避難経路の確認についての学習を行っている。消化設備の点検・使用方法についても確認がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの嗜好を把握し、季節の野菜を取り入れ調理されている。食事・水分量については、個々に確認・記録がなされている。	○	定期的に献立を栄養士にチェックしてもらい、栄養バランスや摂取カロリーに対してのアドバイスが受けられるように検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふんだんに使用した造りで、精神的に落ち着いてくつろげる空間となっている。照明だけでなく、自然光が十分に取り込まれるように配慮され、風通しもよく居心地がよい。調理中の音や匂いで、家庭的な雰囲気が十分に感じられるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にはウッドデッキが設置され、空間の広さと個人の特別なスペースということを感じさせる。家具やその他の持ち込みについては特に制限はなく、入居者が居心地よく過ごせるように配置されている。		